

会 議 録

会 議 名	平成 27 年度 藤江児童館運営委員会
開 催 日 時	平成 28 年 1 月 22 日(金)
開 催 場 所	藤江児童館 図書室
出 席 者	運営委員 藤江区長、藤江小学校校長 主任児童委員、更生保護女性会藤江支部長 民生・児童委員藤江地区会長、藤江駐在所長 交通指導委員、母親クラブ副会長 児童クラブ保護者代表 事務局・・・児童課(児童課長、指導保育士、児童課主事)、館長
議 題	児童館運営について
非公開の理由	
概 要	<p>1 挨拶</p> <p>(1)児童課長</p> <p>(2)区長</p> <p>2 議題</p> <p>(1)平成 27年度児童館活動状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に添って、館長が児童館内容・年間行事活動経過報告を説明 ・児童クラブに関しては、保護者会代表より補足説明 *児童クラブに入っていると、児童館の活動(工作や遊び)をすることができ、学校や家ではできないことを経験することができてよかった。子どもたちは児童館が楽しいと言っている。 *午池あたりに家があるので、学校から帰ると児童館には来にくいですが、児童クラブでよく遊ぶことができ、第 2 の家庭のようである。 *今年度はパステルの先生に来て教えてもらったり、高齢者福祉施設への訪問など、子ども達には普段経験できないことができて大変良かった。 ・母親クラブに関しては、母親クラブ会長より補足説明 *母親同士の交流だけでなく、子ども同士も違う年齢であるが交流を持って遊ぶことができた。 *自分の子どもの成長だけでなく、他の子どもの様子を見ることができ、子育てをする上で参考になった。 *母親クラブの講座がリフレッシュの場になっている。 *バザーで地域の方々にバザー品を沢山持ってきていただき、収益

がでた。児童館を利用する子どもたちの為に使いたい。

*地域のどなたにでも参加してもらえるようにしていきたい。

(2)平成 28 年度児童館活動予定について

・資料に添って、館長が 28 年度の年間行事活動計画を報告

(3)意見交換

<委員>

・児童館が高齢者までも利用できるという施設という印象は受けない。児童館という名では伝わらない。児童館が高齢者も利用できる場とするならば、根底から考えていかなければかわらないのではないか。

・来年度から児童クラブ育成事業について変わるとあるが、理由を聞きたい。

*3年生から4年生への変更と、育成時間を延ばしたことについて
→法の制度が変わり、平成 27 年 4 月 1 日から 10 歳までだったが、概ね小学生に変わった。また、平成 25 年に利用者にニーズ調査を行った結果、時間の延長を望む声が多かった。また、近隣市町村で実施しているので、東浦町ができないとはいえない。

*児童クラブ費の増額について

→平成 10 年度から児童クラブ費が変わっていないこと、育成時間の延長により職員の賃金を算出し必要とさせてもらった。

*児童クラブを小学校へという話について、藤江小学校で空き教室となると、アフタースクールの隣の教室を使うことになる。すると、特別支援クラスの教室を変えなくてはならなくなり、セキュリティに関しても、もともとの学校の作りがセキュリティを重んじては作られていないため難しい。また、子どもたちが学校に限り小学校の職員もいなくてはならない。そのような不安が教員にもある。

→児童館で児童クラブを 6 年生まで拡大となると、児童館の許容量が少ないため小学校の空き教室を利用したいというのが町の考え方ではあるが、各地区によって難しい点も多くある。簡単には進めることができないが、これからの課題である。また、小学校に児童クラブが移行した場合における児童館の在り方については、地域の人に使ってもらう施設にする考え方もある。老人クラブや会議、認知症カフェなどにも使ってもらいたい。その後の児童館についても構想中である。

*児童クラブが 4 年生まで受け入れるにあたって、放課後子ども

教室との兼ね合いについて

→どちらも登録は可能で、重複加入もありうる。どのように利用するかは、保護者の選択で行う考えである。

<委員>

保護者が児童クラブ児を迎えに来た時に、自分の子どもだけでなく、他児の迎えもお願いされて連れて帰ることがあるが、子どもの人数分ジュニアシートを設置してあるか確認してほしい。また、送迎時を狙った車上狙いが他の地区では依然としてあるので、貴重品は必ず持って出るように声掛けをしてほしい。

→児童クラブの保護者に掲示や児童クラブだよりで再度周知する。

<委員>

・母親クラブに入会し、色々な講座に参加している。一人ではできないことも経験できている。様々な人の出会いや関わりで地域も盛り上がると思う。子どもたちのおばあちゃん世代も数人参加してるが、なかなか地域に浸透していかないなので、PRが必要かもしれない。

・ひよこの日やこっこの日が終わり、駐車場に小さなお子さんが走って飛び出してくることがあった。左右確認用のパンダシールが貼ってあるが小さな子には理解が難しいので、何か対策はないか。

→三角コーンなどを使って、簡易的ではあるが柵を作ってみる。

・児童クラブ送迎時に、コミュニティセンター駐車場を利用する場合は、自動車のフロントガラスに「児童クラブのプレート」を表示することになっているが、最近徹底されていない。いろいろな人が利用するという利用者がかきちんと理解してほしい。

→児童クラブの保護者に掲示や児童クラブだよりで再度周知する。

<委員>

一人暮らしの男性が多いが、なかなか外に出る機会がない。コミュニティでも一人暮らしの方のための企画を行うが参加の90%以上が女性である。コマ回しなど子どもたちと関わる機会をつくってはどうか。

→ボランティアなどで児童館に足を運んでもらえるような働きかけをしたい

<委員>

・赤ちゃん訪問の際に「はなはなベビィ」への手書きの招待カードや写真等を見せて、紹介をしている。少しでも外に出るきっかけとして児童館に足を向けてもらえるようにしている。ただ、他の市町村から越してきたお母さんが多く、藤江児童館の場所が分かりづらいという。

	<p>→「はなはなベビィ」から「ひよこ」「こっこ」につながり、保育園への就園までが、つながっていて母親同士の連携が続くきっかけになっている。藤江児童館の場所については児童館案内のパンフレット等に掲載はしてあるが、改良していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しく越してきた方が避難時にどこに避難すればよいか分からないと赤ちゃん訪問時に相談を受けた。また、ひよこの日やこっこの日の活動等で防災倉庫などを見てもらう機会を作ったりと、地域に住む住人に防災について関心を持ってもらえるようにしてはどうか。 <p>→防災ネットの方に保育士対象の研修を行った。80人程の保育士が参加した。石浜中地区では防災ネットと連携し、石浜保育園を使って地域の避難訓練を行っている。防災ネットとコミュニティと施設が連携していきたい。</p> <p><委員></p> <p>児童館お楽しみ会などの手伝いをしている。身近なものを使って遊びや工作など工夫して考えてある。子どもが家に帰ってゲームをする姿より、走り回っている子どもたちの姿を見ると元気が出る。先程からも話にあるように、老人会のおじいちゃんやおばあちゃんとお手玉やおはじき、凧上げなどができるといいと思う。</p> <p><委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・区の自主防災会にも小さな子や小さな子を持つ保護者の参加を促していく、また、防災倉庫の見学なども協力するので行ってもらいたい。 ・行政は「地域は地域で」というが、地域の力は、ほぼボランティアで成り立っている。行政の言い分と地域言い分がかけ離れている。行政が方向性を示して、それから地域に下してほしい。 ・児童館の大人の利用については、昔のように自分の子どもでない子どもを叱れるかという問題がある。昔のように地域の人が子どもを叱るのが難しく、誤解を生むことがある。児童館を利用する保護者にも伝えてほしい。 <p>→大人の利用が増えると、不審者も来にくくなるので、防犯の面からも安心ができる。</p> <p><事務局></p> <p>地域の方々の協力があつての児童館である。今後ともよろしく願います。</p>
備考	寿会会長は欠席、後日報告を行った。